

Meet@fil

～企業のTOPと語る会～

REPORT

Vol.4 ▶▶▶▶▶ Vol.9

2023 11/15 wed

日本海ガス絆ホールディングス 株式会社

代表取締役副社長 平田 純一

Vol.4



今回参加するまでの事前知識としては会社名を知っていたくらいでした。ガスや電気を取り扱う会社は安定している業種だから、就職するには良いと聞くこともありましたが、その中でもいろいろと考えて取り組んでおられるのを聞いてとても勉強になりました。自分はまだ一年生なので就活について考えたことはないですが、就職活動の第一歩として堅苦しくなく、気軽な感じで参加できたのはよかったです。話を聞いていて、今から少しずつどんな業界や業種に行きたいのか考えた方が良いのだと感じました。

「英語を勉強した方が良い」という平田副社長のお話がとても印象に残っています。自分は英語が全くしゃべれません。英語を喋れるようになるなら喋れるようになりたいと思うくらいで、自分から勉強しようという意欲が沸きません。なので、自分が苦手と思う分野に対して意欲的に勉強されているということにすごいなと思いました。副社長の娘さんがお二人とも海外に行っておられるというお話も出ていて、副社長から、若いうちから海外に行った方が良いという話を聞き、自分も在学中に海外に行ってみたいと思いました。行けるならヨーロッパに行ってみみたいです。

(富山大学都市デザイン学部 一年 伊藤太一さん)

2023 11/20 thu

株式会社 富山総合ビルセンター

代表取締役社長 羽柴 俊成

Vol.5



私は就職活動真っ只中なので、参考になることがあればと思い参加しました。仕事への向き合い方に関するお話が印象的でした。自分が楽しいと思うことに対価を払うことが当たり前であるように、仕事はそもそも嫌なこと、嫌なことを頑張った対価としてお給料が貰えるのだということを抑っていました。これから嫌なことをするために一生懸命就活をするのかと考えると病みそうですが、せめて得意で、少しでも楽しいと思える嫌なことでお金を稼ぐために頑張ろうと思います。日本では、将来の夢を語らせることは小学生までで、中学生からは受験や就職などに向かって自分の将来像が現実になるが故に、あまり夢を語る機会がないということを抑っていました。Bに住んでいると、夢や目標を聞かれることは多々ありますし、目標を持った子が集まっていることもあり、自分自身も感化されて目標を持って行動することができています。一方で、大学の友達には将来したいことが思い浮かばないという人もいて、改めて、誰かと目標を共有することが成長に繋がっていると感じました。

(富山大学経済学部 三年 番留帆乃花さん)

2023 12/20 wed

アール・タチバナ 株式会社

代表取締役社長 橘 泰行

Vol.6



十月に開催されたサツマイモと落花生堀りに参加していたこともあり、会社への関心があったことや、会社としてなんで農業の事業をやりたいと思ったか知りたかったので参加しました。会社の事業は静脈産業であるというお話をしていたのが印象に残りました。Bの建物のつくりや、家具のつくりをみただけで、「これは素材がだから…」と普通の人が見えない見方でものを見ているというのが面白かったです。まちの静脈産業としての視点を持っているからこそ、ただ作るだけではない、環境に配慮したまちづくりをしているのだと分かりました。

会社のお話面白かったです。まちなかについてのお話が特に面白かったです。商店街で結婚式をしたときに馬をまちなかに呼んだことがあるというお話は驚きました。発想が会社経営やまちづくりにとられておらず、やりたいことをやっておられて、それが結果的にまちづくりにつながっているのだと感じました。スパイダーマンの恰好で商店街のアーケードを掃除しているところを見たことがないのでぜひ見てみたいですね。社長自身がすごくユニークな方で、お話も面白く、企業の社長さんとお話するのは少し硬いイメージがありました。今までは一番リラックスして参加できました。

(富山大学薬学部 二年 小柳芽吹さん)

Vol.7



「NiX JAPAN」の市森友明社長にお越しいただき、「スポーツを通じた地域活性化」についてお話をいただきました。これまで、どうしたら富山がよりよいまちになるのかということや、その一つの答えがスポーツだということに気づけた内容でした。

サッカーのカタールレ富山やバスケの富山グラウジーズなど、富山のプロスポーツチームは、名前を聞いたことはありましたが、実際に試合を生で見たことがありませんでした。そのような地元のスポーツチームの存在が、会場の立地やまちなかや地域を発展させることに少なからず関係しているのではという都市開発視点のお話は、非常に説得力がありました。

座談会ではまちなかのお店のご飯を食べながら、富山市の中心部にあったらいいなと思うものを学生視点で話し合いました。若い世代に今ボーリングがひそかなブームになっていることや、富山は観光のイメージがないので、観光でできる施設があればいいのではという意見もありました。ここ、まちなか学生シェアハウスもまちなかの活性化に一役買っていると思うので、今回話した内容を実現できるように行動していきたいです。

(富山大学人間発達科学部 三年 高崎未央さん)

Vol.8



信号制御システムの事業に興味があり参加しました。北陸機材(株)は事業の一つとして、水耕栽培でレタスをつくっていると知り、お話を聞くまでは、何でレタスをつくっているのか不思議に思っていました。話を聞いてみると、地方都市が抱える公共事業の減少という問題が根底にあることがわかりました。そのような社会問題にもポジティブかつ前向きに事業として取り組んでおられるというのが印象的でした。社長に、鉄道信号がデジタル化される中で、自分がどんなことをやりたいかと思っているのかをお話し、それを実現するためにどうしたらいいか、実務としてどうやったら最短距離に到達すると思うか意見を聞いてみたところ、将来的に自分がやりたいヨーロッパの信号制御の分野に応用できる内容を日本の企業で勉強することで、実務経験的な部分を海外の大学院で勉強するよりも早く経験できるのではないかとおっしゃっていただきました。真摯に話を聞いていただき、アドバイスをいただけてとても貴重な機会になりました。すごく楽しく学ばせてもらった回になったと思います。川本社長と繋がれたことが縁であり運だと思うので、この出会いを無駄にしないよう自分から行動していきたいと思っています。

(富山大学都市デザイン学部二年 松谷昂紀さん)

Vol.9



今回初めて参加しました。自分は都市デザイン学部に通っているので、同じ「デザイン」というフレーズに興味を持ちましたが、会社概要や事業内容を聞いて、同じ「デザイン」でも違うのだということに気づけました。お話の中で、みんなの将来の夢について社長から聞かれた時間がありました。同じ入居学生の松谷君、平井君の将来の夢の話がすごく具体的で、しっかりとした夢を持っていてすごいなと思いました。自分は将来の夢についてそこまで具体的に考えることがなかったし、他の人の夢について聞く機会がほとんどありませんでした。みんな言うのは恥ずかしいというのもあって、こういう場じゃないと言えないことなのではないかなと思います。同じ年代の友達の話について初めて聞くことができ、すごくいい機会になりました。自分の夢の話をしたときに社長から「コメの話が出て、興味を持ちました。これから春休みになって時間ができると思うので、少し勉強してみたいなと思いました。」

社長の言葉の中で、「過去と他人は変えられないが、未来と自分は変えられる」という言葉が印象に残りました。その通りだなと思えたし、久しぶりにいい言葉を聞いて、胸に刻みました。未来の自分に期待したいなと思います。

(富山大学都市デザイン学部一年 竹内大聖さん)

まちなか学生シェアハウスサポートクラブ会員募集中

学生たちがまちなかで「いきいきと活動できる」ようご支援いただける企業の皆様を募集しています！
意欲ある学生の活動を支援し、富山愛のある次世代を育成することで、富山の活性化を目指します。

年会費 10 万円または
会費相当のサービス等の提供

入居学生との交流機会

企業価値の向上

自社サービスのモニタリング